2024年06月18日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【ＦＯＭＣとＲＢＡは政策金利据え置き】

今月（2024年6月6日）のＥＣＢ（欧州中銀）理事会では、政策金利を0.25％引き下げる、と決定した。

中銀預金金利を過去最高の4.0％から、3.75％に引き下げた。

利下げは2019年9月以来、4年9カ月ぶり。

++

それに対して、先週（2024年6月11日、12日）のＦＯＭＣでは政策金利据え置きを決定した。

7会合連続での政策金利据え置き。

ＦＯＭＣは、年内（2024年内）の利下げ回数を1回と予想し、来年（2025年）により多くの利下げを行う見通しを示した。

3月のＦＯＭＣでは、年内（2024年内）の利下げ回数を3回と予想していた。

++

そして、本日（2024年6月18日）のＲＢＡ（オーストラリア準備銀行、豪中央銀行）の理事会では、豪政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートの誘導目標を、4.35％に据え置くと決定した。

豪政策金利の据え置きは、事前予想通り。

++
++

ＥＣＢ（欧州中銀）は、利下げを断行したが、米国とオーストラリアは、政策金利を据え置き、利下げを行わなかった。

米国とオーストラリアも、方向性としては、時間が経過すれば利下げに向かう、と考えるが、国内のインフレ懸念と景気後退懸念のバランスを考慮して、利下げのタイミングを計っているのだ、と考えます。

++
++

上記以外の国々でも、利下げに向かう傾向が見られます。

そういった世界の中で、日本だけが、逆方向に向かっているように映ります。

本日（2024 年 6 月 18 日）の参議院財政金融委員会で、植田日銀総裁は、7 月の日銀金融政策決定会合までの経済データ次第だが、
「7 月の会合で、政策金利引き上げの可能性が十分にあり得る」
と述べた。

ただし、植田日銀総裁は、国債の買い入れの減額の具体的な規模については、言及を避けた。

++
++

様々な方面で、日本の「ガラパゴス現象」が指摘されますが、金融の世界でも、それを痛感します。

++
++

（2024 年 06 月 18 日東京時間 14：35 記述）